

# 和紙の勉強部屋



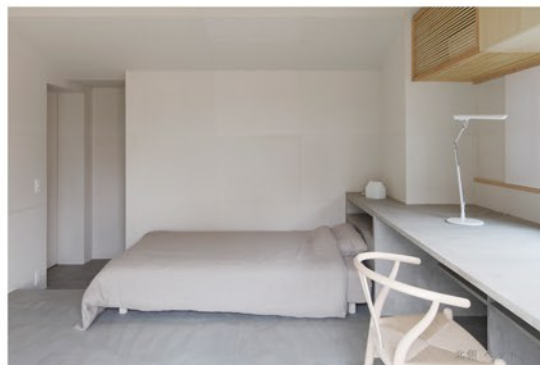
南側 開口部方向



東側 勉強机方向から



西側 入口部方向



東側



大梁



南側障子



原色和紙

## < 物件概要 >

古くからの町並みが残る京都の旧市街に位置した住宅で、周辺の家々の中でもとりわけ古くから残る木造住宅。クライアントの御先母様が使用していた1室を、息子の書斎へと改装した。

## < 設計と件 >

- ・古くからの建築自体が持つ木造空間の良さを生かしつつ、現代性を取り入れた空間。
- ・既存の南側に面した開口を生かした明るい空間とし、書斎として落ち着きのある空間。
- ・長年の築年数からなる建築の老朽化に対する構造補強。

住 所：京都府向日市  
 主要用途：専用住宅  
 構造：木造2階建  
 改装面積：20㎡  
 改装位置：1階

## < コンセプト >

### 新 / 旧の緩やかな繋がり

## < 設計の要点 >

- ・木造建築特有の障子や、大梁といった既存空間のなごりを残しつつ、それらに繋がる素材として「和紙」の使用を決定した。室内の床・壁・天井全てを「和紙」で包み込みながら、既存の木造空間を象徴する大梁を露出することで、新たな空間の中に既存空間の面影を感じられる新 / 旧の緩やかな繋がりを図った。
- ・収納やベッドを入口付近の凹凸スペースに配置することで、広い書斎スペースを確保した。また、勉強机の足下に本棚をしまうことで、広い卓上スペースを確保した。
- ・室内は、上部（壁、天井）を「柔らかな白」、下部（造作家具、床）を「淡いグレー」で貼り分け、落ち着きある空間となるように計画を行った。
- ・新たに造り付けた勉強机は、壁一面に配置することで、勉強部屋の中心となる存在感のある机を作り出した。
- ・南側の開口サイズは、構造スパンとサッシの経済性を考慮しつつ最大限大きなサイズとし、自然光をふんだんに取り込んだ明るい室内空間とした。
- ・南側の開口から入る自然光を、障子により拡散しつつ、仕上材の和紙により室内全体に柔らかく反射させることで、明るく落ち着きある空間となるよう計画した。
- ・天井内の既存梁に新材をだき合わせ、構造補強を行った。

## < 仕上概要 >

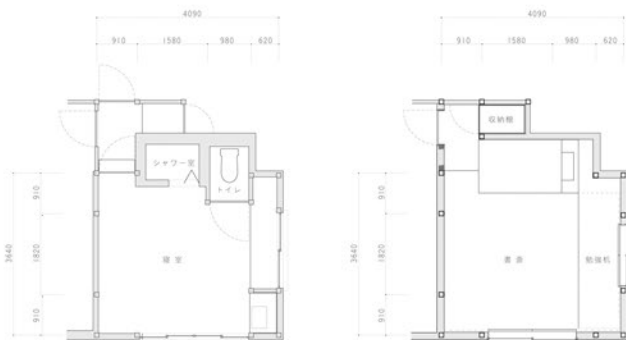
- ・床：構造用合板 t24mm + 断熱シート + ラワン合板 t12mm + 和紙 / 柿渋 + 染料仕上（ライトグレー）
- ・壁：PB19.5mm + 和紙（白）
- ・天井：PB19.5mm + 和紙（白）
- ・造作家具 / 吊 棚：シナ合板 t21mm + クリア塗装仕上
- ・勉強机 / ニッチ：シナ合板 t21mm + 和紙 / 柿渋 + 染料仕上（ライトグレー）
- ・収納棚：シナ合板 t21mm + 和紙（白）

## < 概算予算 >

¥400万（税込）



< 外観及び改装前写真 >



< 改装前平面 >

< 改装後平面 >